HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ルポ『ソロモン諸島 : 戦跡によりそう人々』執筆に向けて
Author(s)	成田, 吉希; 川本, 思心
Citation	CoSTEP研修科 年次報告書, 6(2), 1-7
Issue Date	2022-03-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/84637
Type	report
File Information	NeXTEPreport_2022-03-30_narita.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ルポ『ソロモン諸島 ～戦跡によりそう人々～』執筆に向けて

成田 吉希（1 年目）

2022 年 3 月 30 日

担当教員：川本 思心

概要

ガダルカナル島。そう述べた方がピンとくるかもしれない。第二次世界大戦で日本軍が凄惨な敗戦を喫した南太平洋のソロモン諸島のひとつの島であり、その名を冠した「ガダルカナルの戦い」（1942 年 6 月～1943 年 2 月）で有名である。太平洋戦争における分岐点の一つとも言われ、その象徴性から毎年 8 月には日本国内でその歴史がメディアに取り上げられることも珍しくない。

しかし、その戦いの前後及びその中においても、場所と時間を変えて、様相の異なる戦いがあったことはあまり知られていない。そして、その現場には今も当時を伝える多くの戦跡が残り、それらの他国から持ち込まれた戦争の痕跡のそばには、さまざまな思いと関わりをもってそこに寄り添い生活している人々がいる。

筆者は、2019 年 6 月から 2021 年 6 月まで在ソロモン日本国大使館で専門調査員として活動した[1]。その傍ら、余暇を利用して多くの戦跡を訪れ、現場で様々な人々に出会うことができた。CoSTEP 研修科では、そうした人々の声と戦跡に関する記録の整理し、ルポの作成に取り組んでいる。この年次報告書では、ルポ作成の前段としてのデータ収集および整理状況について報告する。

目的と背景

ルポの目的は、ソロモン諸島にある太平洋戦争の戦跡の現状と戦跡によりそう人々の様子を伝えることである。また、現存する戦跡の分布や戦史を整理し、ソロモン諸島の戦いの空間的、時間的な奥行きも表現したいと考えている。背景には、太平洋戦争の歴史は、国内で強い関心を寄せられているが、海外で取り残されている戦争遺産やそれによりそう現地の人々に無関心でないかという問題意識がある。ソロモン諸島の各地には、戦争後 80 年近く経ったにも関わらず、日本軍と連合軍が持ち込んだ兵器等の戦跡が今でも当時のまま多く残っている。私は、これらの戦跡や寄り添う人々と向き合うことが、日本国内でも語り部が少なくなった太平洋戦争の歴史をどう残すかを考えるヒントがあるのではと考えている。

また、戦跡と科学技術コミュニケーションは一見、関係がないように思える。しかし、近代の戦争はその時代の科学技術の表象であるといえるし、時が過ぎ、歴史となっていく戦争をどう未来につなげるかは、コミュニケーションの問題でもある。CoSTEP でルポ作成に取り組むことで、科学技術コミュニケーションの研究の蓄積からヒントをもらい、また、ゆくゆくは反対に科学技術コミュニケーションに還元できるものが見つかればと思う。

実施概要

2021 年度の活動としてソロモン諸島現地での、追加のデータの収集と整理を行った。収集データは、ソロモンに赴任した 2019 年 6 月以降、研修科での活動開始以前のものも使用している（1 章参照）。データ整理はゼミや発表会でのディスカッションを踏まえ（3 章参照）、戦跡の分布、戦跡の特徴、戦史と戦跡との関係、戦跡によりそう人々の声をテーマに行った（2 章参照）。

[1] 2022 年 3 月から 10 月までコロナの影響で帰国。

1. データ収集

戦跡の現状や人々の声に関するデータは、ソロモン滞在中に余暇を利用して現地を訪問した際に収集した。戦跡の多くはわかりづらい場所やコミュニティーが管理する慣習地内にあり、立ち入る際の支払い[2]等でトラブルが生じることもあるため、現場への訪問は、現地の知人やガイドにも案内してもらった。訪問した現場は表 1 の通りである。

表 1 訪問した戦跡

	対象	場所	訪問月
セントラル州	ツラギ	ツラギ島	2019年11月
	ツラギ　トンネル	ツラギ島	2019年11月
	ガブツ島	-	2019年11月
	タナンボコ島	-	2019年11月
	菊月	Tokyo Bay	2019年11月
	米軍輸送船	Tokyo Bay	2019年11月
ホニアラ市内	ヘンダーソン空港跡地	ホニアラ国際空港	複数回
	西飛行場跡地	ゴルフ場	複数回
	米軍夜戦病院跡地	国立中央病院	複数回
	日本戦没者慰霊碑	アウステン山（ギゾ高地）	2019年10月
	USメモリアル	スカイライン	2019年10月
	一木支隊慰霊碑	アリゲータークリーク	2019年10月
	一木支隊慰霊碑	テナル協会	2019年10月
	米国慰霊碑	ムカデ高地（ブラディリッジ）	2019年10月2021年4月
	第二師団慰霊碑	ムカデ高地（ブラディリッジ）	2019年10月2021年4月
	見晴台・ギャロッピングホース	マタニコ川沿い	2019年10月
	ホニアラ博物館	ポイントクルズ	2021年6月
	コーストウォッチャー像	ポイントクルズ	2021年1月
	戦争博物館	ラナディ	2021年4月5月
	川口支隊慰霊碑	博物館横	2021年5月
	ソロモン諸島方面戦没者慰霊碑	ナナ村	2021年5月
	丸山道三角碑	ポハ川	2021年5月
	ジャコブ・コーザ像	ロベ	複数回
	ベティカマ大学裏博物館	ベティカマ	2021年6月
ガダルカナル島郊外	ビル村戦争博物館	ビル村	2019年10月11月
	テテレビーチ	テテレ村	2019年11月
	鬼怒川丸	タサファロング・ボネギビーチ	2021年1月
	第二師団慰霊碑	タンベア（撤退の地）	2021年5月
	エスペランス岬	（撤退の地）	2021年5月
ウエスタン州	ムンダ空港慰霊碑	ムンダ空港	2021年6月
	Barney's 博物館	ムンダ空港近く	2021年6月

2. テーマごとの整理

2.1 戦跡の分布

戦跡の分布整理には Google Map を用いた（図 1）。場所の特定は主に、写真データに記録された位置情報や Google Map の衛星写真で確認した。戦跡のある場所にマーカーを追加し、マーカーに写真や動画を紐づけることで現地の様子を確認できるようにした。

図 1　Google Map 上に記録したソロモン諸島戦争遺産

[2] 戦跡が慣習地内にある場合は、立ち入りに 30〜100 ソロモンドル程度、要求されることがある。

2.2 戦跡の特徴

戦跡を戦争残存物（戦車・戦闘機・不発弾等）、遺構（防空壕・物見櫓等）、博物館、慰霊碑・祈念碑に分けて整理した。現段階での結果は以下の通り。現地で確認したもののデータを反映できていない戦跡もあるため、今後、この数は増える見込みである。

写真 1 ガダルカナル島レッドビーチに残る米軍の水陸両用車 LVT-1

① 戦争残存物（戦車・戦闘機・不発弾等）5 件

戦車・戦闘機・沈没船・不発弾等で管理されていないものをまとめた。大型の残存物は、現地に移動させる手段がないため、慣習地内の奥まった場所や海の中など放置されていることが多い。戦争残存物は全てソロモン政府に所有権があるが、屑鉄として換金するために鉄材が剥がされたり、林業で木々を伐採する際に破壊されたり、違法に国外に持ち出されるケースもあるという[3]。

写真 2　ツラギ島 防空壕

② 遺構（防空壕・物見櫓等）6 件

著名な戦地では塹壕や土塁あとが確認できる。防空壕も多々確認できるが、その規模や数は日本軍が拠点とした期間に比例する。一部、観光客から現金収入を得る人々以外は特段、遺構の経緯についてあまり気に留めておらず、防空壕が若い人の逢瀬の場にもなったりしている。当時の物見櫓や基地の土台なども残るが、こうした建造物は米軍が建設したものが中心である。

写真 3　ビル村戦争博物館で展示されている米海軍 F4F ワイルドキャット

③ 博物館 8 件

コミュニティーが管理する慣習地に大小問わず戦争遺産を陳列した野外博物館と管理者の家屋内にまとめた博物館がある。双方とも特段、説明書き等はなく、管理者が説明するスタイルである。野外博物館での管理は芝刈り程度で展示物は基本的に放置されている。いずれもアクセスが悪く、観光客が頻繁にくる当てもないため、管理のコストが最小限に抑えられている印象。

写真 4　ムカデ高地　第二師団慰霊碑

④ 慰霊碑・祈念碑 17 件

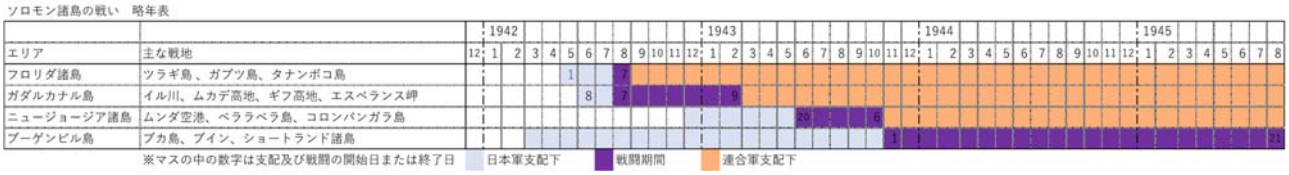
日本の碑は慰霊に重点をおいた質素なものが多い。遺骨収集団との関係が深い現地のガイドが定期的に清掃し、現状を報告しているが、地元の人からも忘れられた慰霊碑もある。そうした慰霊碑は金属製のプレートが剥がされていることが多い。一方、遺骨が頻出する場所では新しく慰霊碑を立てたいとの声もあった。

[3] 2021 年 6 月 24 日ローレンス･キコ国立博物館副館長の発言より。

2.3 戦史と戦跡の関係

戦史上、ソロモン諸島の戦いを構成する四つの戦い（フロリダ諸島の戦い、ガダルカナル島の戦い、ニュージョージア諸島の戦い、ブーゲンビル島の戦い）の期間は表 2 の通りである。日本軍の影響下にあった期間を青、戦闘期間を紫、日本軍が撤退し米軍の影響下にあった期間を橙色とした。

表 2　ソロモン諸島の戦いの経過



戦史と戦跡の大まかな関係は、図 2 のように、Google Map に記録した戦跡を関係する戦いのレイヤにまとめて示した。戦跡がどの出来事に関係しているかは、文献の他、位置情報や現地の人の話も参考にした。個々の戦跡にまつわる具体的な話は、Google Map のマーカーに情報を加えるようにした。

ガダルカナル島の戦いに関する戦跡は非常に多いため、日本軍がルンガ飛行場（ヘンダーソン飛行場）を奪い返すために攻勢を仕掛けていた時期と、その後の戦況が硬直し撤退に至るまでの時期にわけた[4]。四つの主要な戦いに関連して現地で確認できた戦跡の数は表 3 の通りである。

図 2　Google Map での整理状況の抜粋

表 3　主な戦いと確認できた戦跡の数

	時期	残存物	遺構	博物館	慰霊碑	小計	合計
フロリダ諸島の戦い	1942.8.7-9	2	3	0	1	6	37
ガダルカナル島の戦い	1942.8.7～10	2	1	7	8	26	
ガダルカナル島の戦い	1942.11～1943.2.9	0	0		8		
ニュージョージアの戦い	1943.6.30～10. 20	1	2	1	1	5	
ブーゲンビル島の戦い	1943.11.1～ 1945.8.2	0	0	0	0	0	

[4] 米軍によりルンガ飛行場（ヘンダーソン飛行場）を占領された 1942 年 8 月から空港奪還のための日本軍による最後の攻勢となった第二次総攻撃が行われた 10 月までと、それ以降、エスペランス岬にて撤退作戦が行われた 1943 年 2 月まで。

2.4 戦跡によりそう人々の声

出会った人々の様子や発言を、戦跡によりそう人々として出会った人々を表 4 にまとめた。一部、動画に音声を残すことができたものは Youtube 個人アカウントで管理し、文字起こし機能を使用して発言内容を書き出した。

今後、現地で得た情報をもとに、人々の声をまとめ、現地コミュニティー、ガイド、収集家等といった戦跡をめぐる多様な立場を描写したい。

表 4　戦跡の側で出会った人々

日付	名前	役職
2019/7/29	遺骨収集団の方々・現地協力者	
2019/8/11・10/14・10/19・11/25・2021/4/25	シルビア氏	ビル村戦争博物館　管理人
2019/10/13	ベン・マイケル氏・現地ガイド	マタニコ川地域
2019/11/23・24	ボブ・ノートン氏	Raiders Hotel & Dive 代表
2019/11/23・24	リチャード氏・現地ガイド	Turagi Tours & Travel代表
2021/4/14・5/15	ヨゲシュ・マークワース氏	ルンガ戦争博物館・ロベ戦争博物館
2021/5/15	カート・マークワース氏	ルンガ戦争博物館・ロベ戦争博物館
2021/5/8・5/15	フランシス・デーヴゥ氏	メンダナホテル・ツアーアテンド業
2021/6/12-15	タケダ・ビシウ氏	ムンダ 市ガイド
2021/6/14	アブラハム・パタウアクア氏	ご遺骨を見せてくれたお爺さん
2021/6/13	バーニー・ポールセン氏	ピーター・ジョセフ戦争博物館
2021/6/24	ローレンス・キコ氏	国立博物館副館長

写真 5　ビル村戦争博物館を案内するシルビア氏

写真 6　米軍輸送船を案内するリチャード氏

写真 7　一式陸攻を組み立てるヨゲシュ氏

写真 8　資料を見せてくれるフランシス氏

写真 9　パタウアクア氏の畑で見つかったご遺骨

写真 10　展示物を説明するポールセン氏

3. 発表・ディスカッション

研修科生として科学技術コミュニケーション研究室（川本ゼミ）で議論をするとともに、3 回の発表を行った。日程は下記の表 5 の通り。

5 月 19 日に、在ソロモン諸島日本大使館にて業務の一環として、発表及び議論を行った。発表内容はソロモン諸島の戦争遺跡の現状を発表するもの。研修科が本格的に始まる前にも関わらず、研究室の方々に事前に助言をいただき、形にすることができた。

2021 年 6 月から 2022 年 3 月までのゼミでは、ゼミメンバーに基礎情報を伝えるとともに、科学技術コミュニケーションの観点で何を注意すべきか、すでにある戦史物や戦争遺稿をまとめた書物と異なる切り口とは何かを議論した。その結果、以下の点に基づいてルポ形式で執筆することとした。

・戦跡の位置や遺物を正確かつコンパクトに記録する
・単に戦跡を記録するのではなく、その保存などにかかわる方々の声とともに残す
・戦跡を「観光資源」といった安易な言葉で捉えない
・著者自身の目線とともに、読みやすい形式でまとめる

11 月 6 日の中間発表では、研修科の受講生同士が協力して企画し、CoSTEP 関係者を対象に発表した（写真 11）。また、3 月 12 日の成果発表会では CoSTEP のホームページにてこの一年の実践成果を投稿した（写真 12, 13）。この投稿では GoogleMap や写真のほかに動画を 9 本アップした。【URL】https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/news/21228

表 5　2021 年度研修科活動の日程

2021 年	2022 年
5/15 土　開講式	1/20 木　ゼミ：草稿について議論
5/16 日　ゼミ：大使館発表準備	3/ 3 木　ゼミ：成果発表会準備
19 水　発表：在ソロモン日本国大使館にてプレゼン	12 土　発表：修了式成果発表会にて記事・動画を公開
6/15 火　ゼミ：関連論文収集	
19 土　ゼミ：基本方針と年間スケジュール検討	※ゼミや中間発表はすべてオンラインで行った。
25 金　ソロモン諸島を出国し日本へ帰国	※これらの日程以外にもゼミに参加し、他の研修科生や院生の発表についてのディスカッションに参加した。
7/17 土　ゼミ：執筆形式について議論	
8/28 土　日本を出国し、マーシャル諸島へ	
11/4 木　ゼミ：研修科中間発表準備	
6 土　発表：研修科中間発表会にてプレゼン	

写真 11　中間発表の様子

写真 12　成果物のバナー

写真 13　成果物で投稿した動画の一つ

まとめと展望

2021 年度 CoSTEP 研修科では、ソロモンでの経験をどうアウトプットするかの方向性の検討及びデータの整理を行った。現在、現地で確認した全ての戦跡を Google Map 等に反映すべく作業を継続している。それぞれの戦跡に簡単な解説文を掲載することで戦史との関係や現状をより伝えることができるため、Map の完成を今後も目指す。

戦跡の側で出会った人々との会話ややりとりをルポとして残すことは、将来、現地を訪問する人々の参考資料となりうる。人の命や尊厳にも関わる取り組みであるため、真摯に取り組み、目標として 2022 年 8 月の終戦記念日を迎える前に形にしたい。戦争が遠いものではなくなってしまった昨今、太平洋戦争の戦跡の現状という観点から日本の歴史を振り返るきっかけになればと思う。